

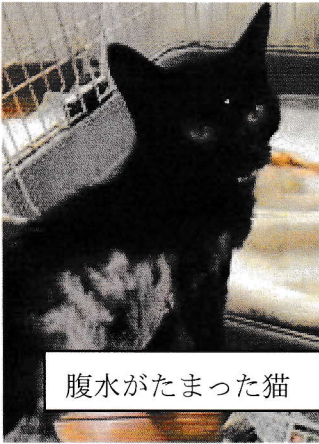
# 猫ボランティア活動の保護猫例

ボランティア活動で大切なこと



ボランティア活動を長く！楽しく！続けること

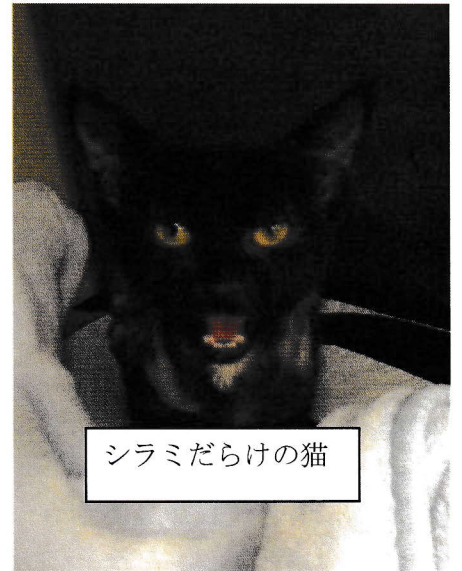
## 私の保護活動



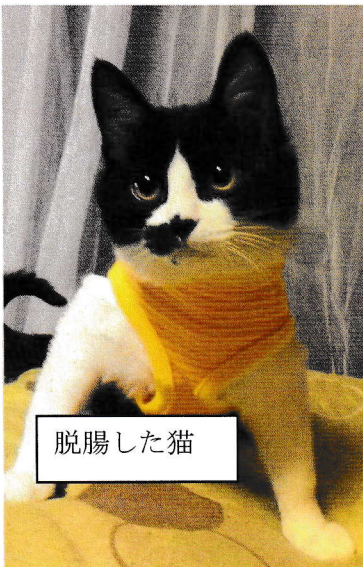
腹水がたまった猫



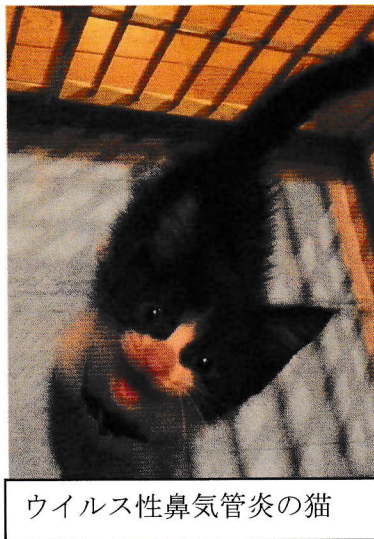
脳障害の猫



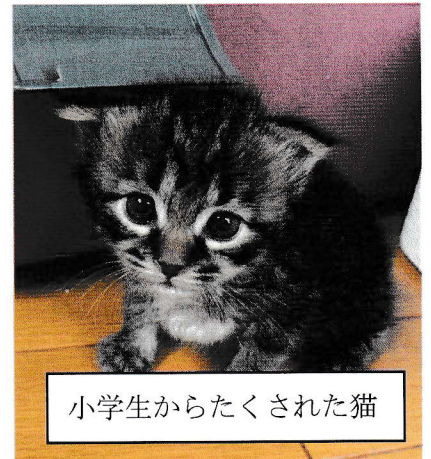
シラミだらけの猫



脱腸した猫



ウイルス性鼻気管炎の猫



小学生からたくされた猫

かわいい仔猫、成猫保護時病気はあっても元気に里親さんのもとへ送り出します♡

## 活動の際に保護しても譲渡できなかった猫

保護活動をやってみたい方は多いのではないのでしょうか？

かわいい猫を保護した！皆さん人気の保護活動ですがイレギュラーなことが起こることがあります。

保護の大変さや自分がどんなボランティアなら無理なく楽しくできるのかを考える例にしていただければ幸いです。

### 1 例目 交通事故で動物病院にきた猫



顎は折れ、皮膚が裂け  
目は見えず、耳も聞こえない・・・

リリースしたいけど  
目、耳が不自由だと生きていけない・・・

皆さんならどうしますか？



#### この例の中で話したボランティア

- ① 交通事故の猫を病院に運んだ
- ② 治療をした
- ③ 保護をする
- ④ 飼い主を探す

#### ボランティアで重要なこと

自分ができることをする！！



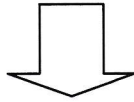
## 2 例目。

生後 1 か月の猫が外で倒れていました。

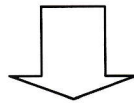


保護して、里親に出したい  
なー！

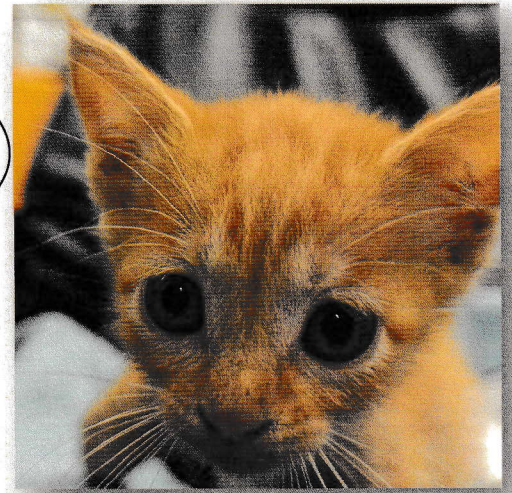
トライアル決定！！でも・・・



トライアル中にけいれん発作  
病院に行くと治らない深刻な病  
気だと診断される



トライアル、譲渡は中止



### ボランティアの中でもやってみたいと思う仔猫保護

元気そうに見えるかわいい仔猫でも突然何かの病気がわかり医療費がかかったり、命を落としたり、譲渡できなくなることがあります。

本当に保護できる環境にあるのかをこの話で考えて、もしできないというのであれば保護以外の自分のできる活動も考えてみてください。

### まとめ

猫のボランティア活動に正解はありません TNR も保護も譲渡活動もボランティア活動の寄付や手伝いもすべて素晴らしいことです。ですが自分ができないことをやるとボランティアが苦痛になります。もし保護をするのであれば覚悟を持ってやりましょう。クローバーのメンバーやほかのボランティア団体さん愛護センターの話をきき無理のない活動を、長く続けてください！



前足骨折ウジがわいていた猫



横隔膜ヘルニアだった猫



ノミが沢山寄生した猫